



ぼく

スローロリスに

なつたよ

あるひのこと

ぼくは おかあさんと かいものに きた。

そこで あるものを みつけた。

「あっ！」

「どうしたの？」





モフモフ

クリクリ



「スローロリスね。」



「かわいい！」
「ほしいな。」



そのひのよる...

スヤスヤ...



クンクン

はっぱのにおい...



ガサガサ... ゴソゴソ...



ん~、うるさいなー。

ガサガサッ



「はっ！」

ガサガサッ

ガサガサッ



ムシャムシャ

ゴノゴノ...

ここは.....?

「やっと おきた。」

「これ、おいしいわよ。」

「う、うん…。」

ムシャムシャ

モグモグ

サクサク

「おいしい！」

パチンッ

「えっ…？」



シューッ

ボトッ...

「いててて...」

「ねーねー...。ねーってば!」



「...。」

「よしっ!

きょうも おおもうけだ!」



そのご……

バチッ

「いてっ！」

ガシャンッ

ぼくは どくのある はを きられた。

オりに いれられた。

どこかへ はこばれた。

「いたいよー……。」

「せまいよー……。」

「こわいよー……。」



「ぼく、

どうなっちゃうの…？」

ガタガタッ

ガタガタッ

ガタガタッ

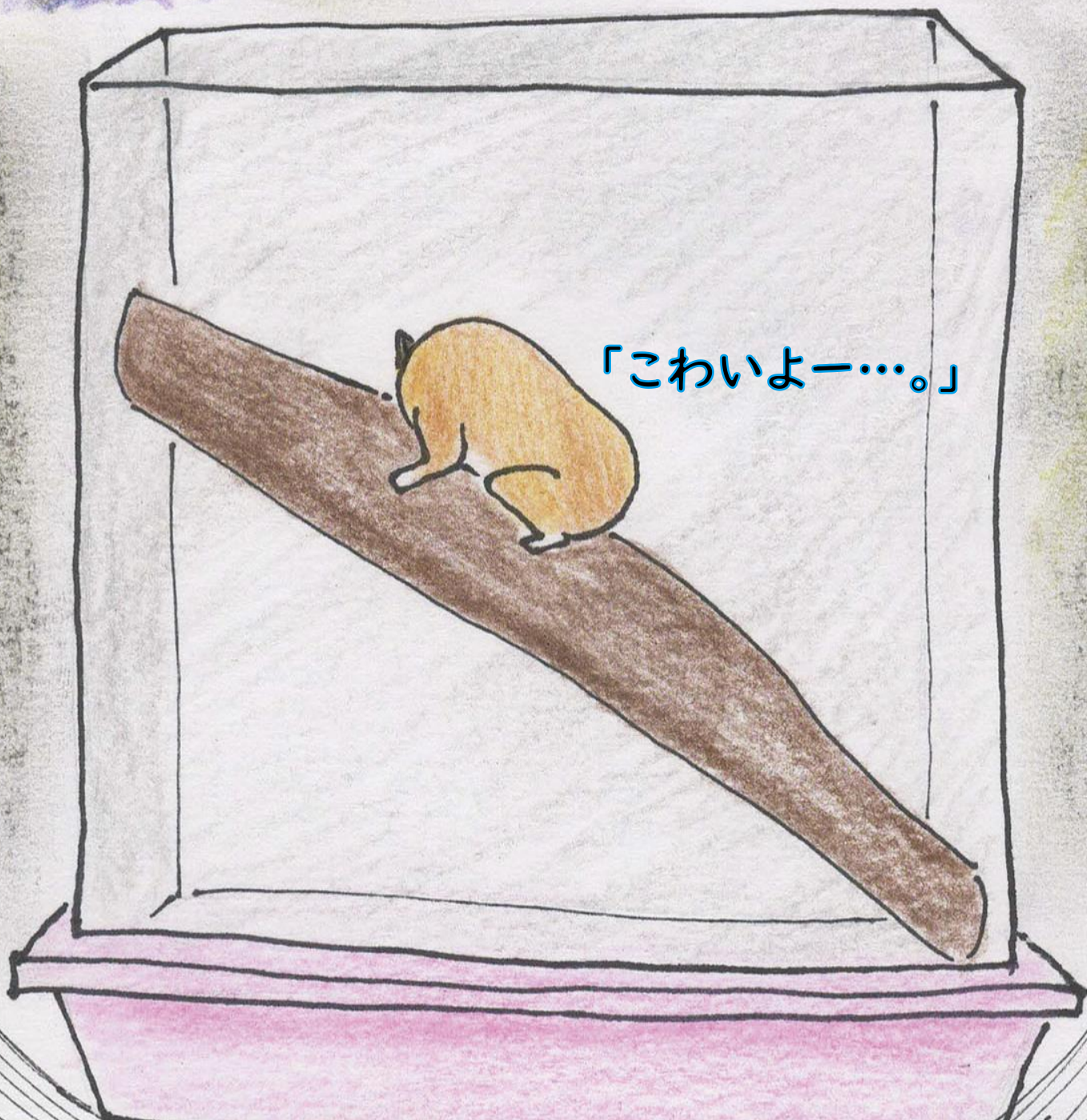
きがつくと、ぼくのめのまえにヒトが たっていた

⑧

「かわいいね〜。」

「かっちゃんか！」

「こわいよー…。」

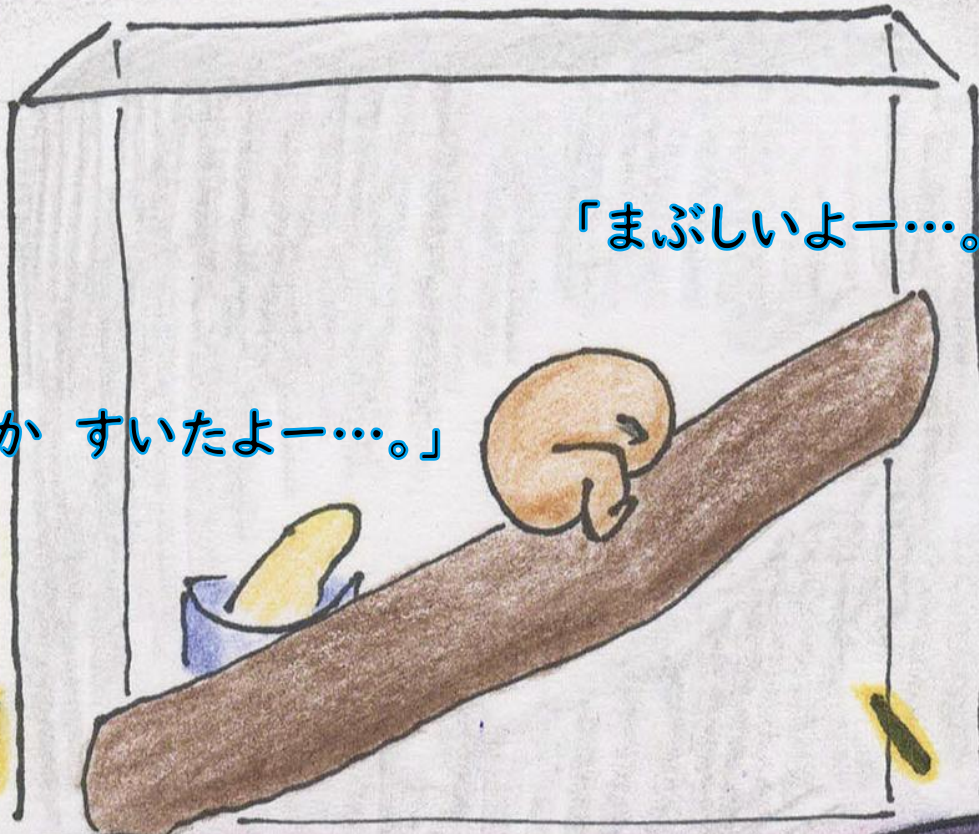




ガチャッ

「あたらしい おうちだよー！」

「ん？ げんきが ないぞ。」

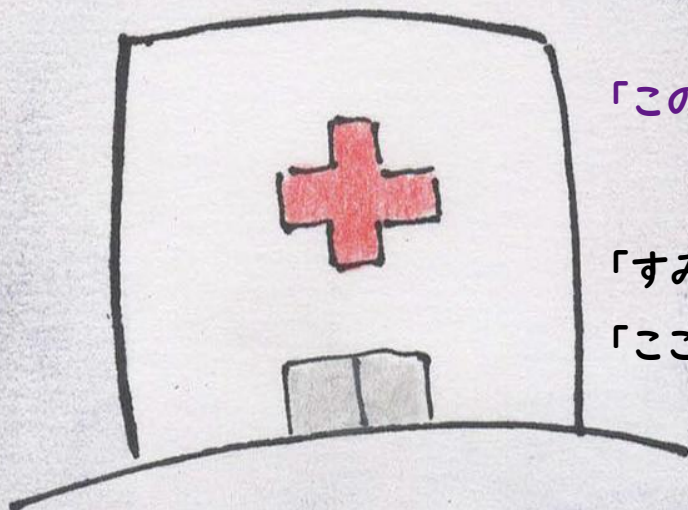


「まぶしいよー…。」

「おなか すいたよー…。」

「ほんとだ！」

「びょういんへ いかないと！」

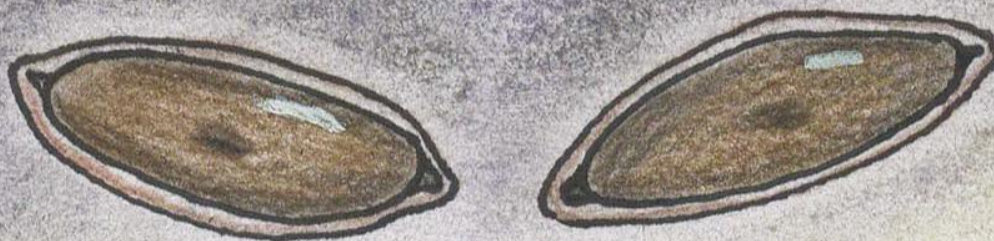


「この子、ぐあいが わるいみたいで…。」

「すみません。」

「ここは イヌと ネコだけの びょういんです。」

「つかれちゃったよ…。」



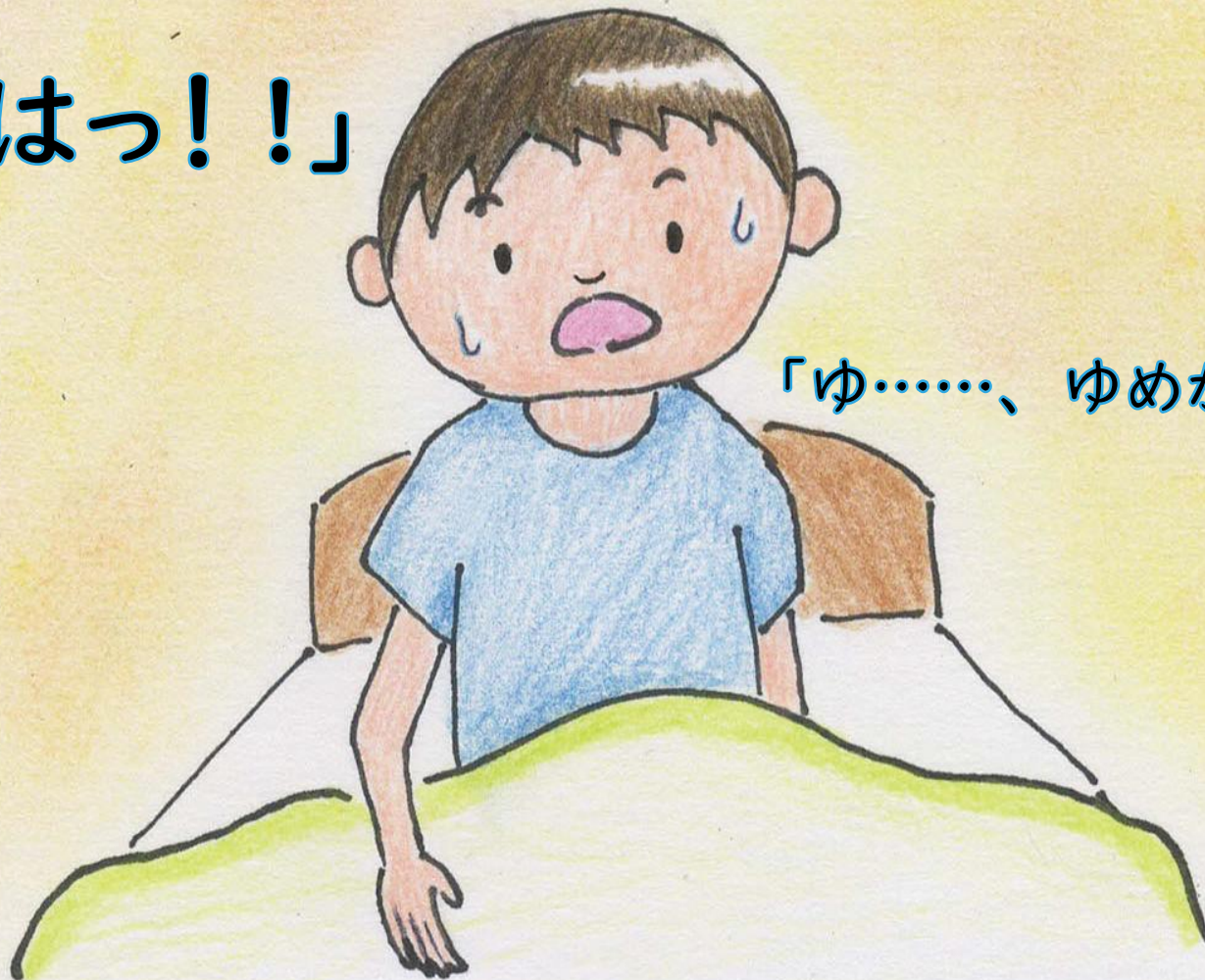
千千千…

千千千…

千千千…



「はっ!!」



「ゆ……、ゆめか……。」

「おはよう。」

「おかあさん!!」

わ——ん

「あら、どうしたの？」

ゆめでよかった。
まもってあげたいな。



おわり。